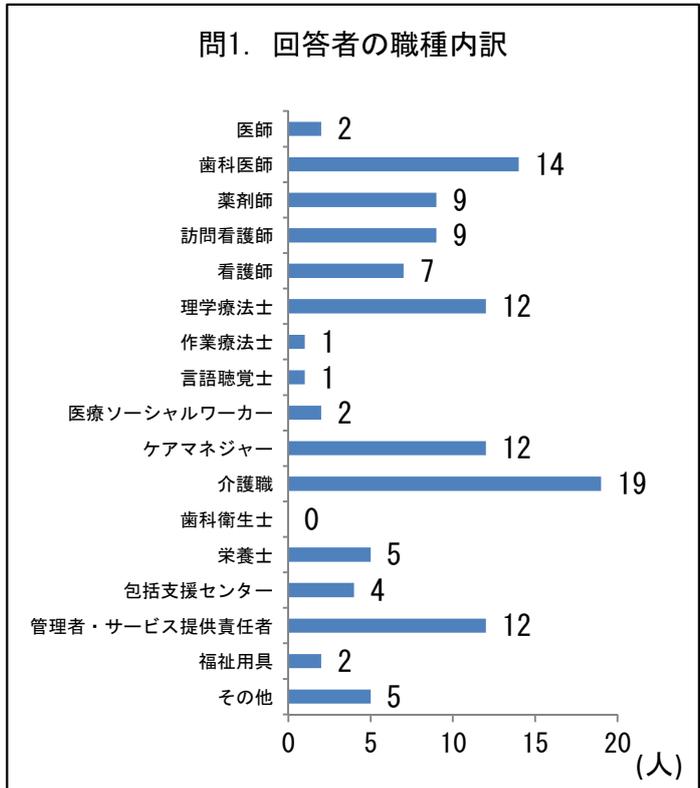


令和5年度 多職種連携研修（第1回） アンケート結果

回答者数（人）
117

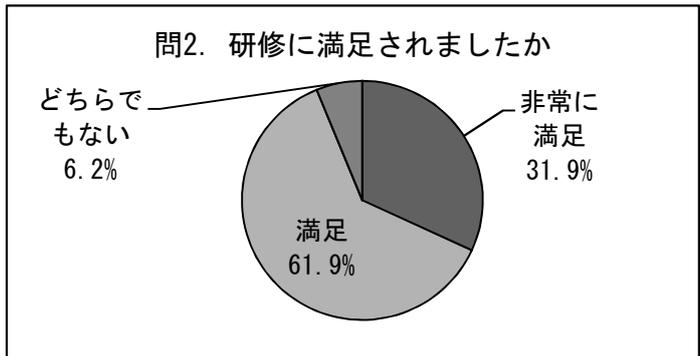
問1. 回答者の職種内訳

職種	人数	割合
医師	2	1.7%
歯科医師	14	12.0%
薬剤師	9	7.7%
訪問看護師	9	7.7%
看護師	7	6.0%
理学療法士	12	10.3%
作業療法士	1	0.9%
言語聴覚士	1	0.9%
医療ソーシャルワーカー	2	1.7%
ケアマネジャー	12	10.3%
介護職	19	16.2%
歯科衛生士	0	0.0%
栄養士	5	4.3%
包括支援センター	4	3.4%
管理者・サービス提供責任者	12	10.3%
福祉用具	2	1.7%
その他	5	4.3%
未記入	1	



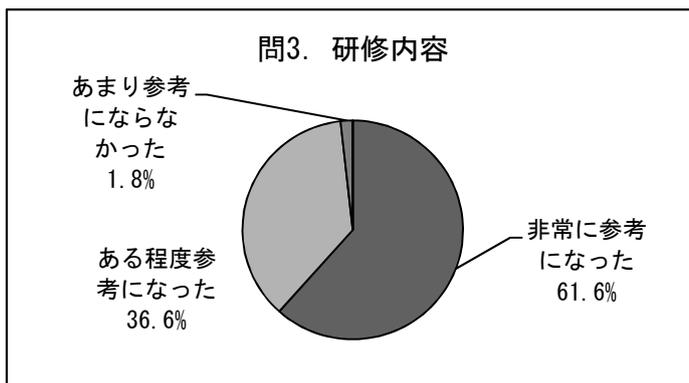
問2. 研修に満足されましたか。

項目	人数	割合
非常に満足	36	31.9%
満足	70	61.9%
どちらでもない	7	6.2%
不満	0	0.0%
非常に不満	0	0.0%
未記入	4	



問3. 研修内容はいかがでしたか。

項目	人数	割合
非常に参考になった	69	61.6%
ある程度参考になった	41	36.6%
あまり参考にならなかった	2	1.8%
よく分からなかった	0	0.0%
未記入	5	



研修内容について（自由記述）

他職種の具体的な内容を知り、参考になり、多職種連携が大切だという意見が多かった。

<全体の感想>30名

・とても参考になる研修内容でした。
・知らない事が多くて勉強になりました。
・事例が多くあり、わかりやすかった。
・色々な職種の方との連携が大切だと思った。
・多職種の連携の大切さは認識していたが、具体的な活動内容が知れて良かった。
・今まで知らなかった多職種の活動を事例と共に聞くことが出来て良かったです。
・各講師による連携の実際を知ることができた。
・他職種の先生の考え方が少し理解できた。
・患者様に関わる全ての職種の方と話し合いを持つことで、治療方針を共有することが必要だと思いました。
・他の職種の方がどんなことをしているのか実例を伺いながら知る事ができとても参考になりました。
・どの職種も連携に困っているなど分かった。市全体で考えることが必要。
・在宅支援の困りごとへの対応にとっても参考になった。
・以前から何度も聞いている話も多いが、その都度、状況の確認ができる。
・専門用語（内容）を分かりやすく説明して欲しかった。
・スライド、写真、動画が見られてよかった。
・自分でもアドバイス出来る事が増えた。
・お客様のことで困ったときに、どこに電話すればよいか分かった。
・連携を取りやすくなるため、窓口先等の情報も欲しかったです。
・それぞれの講演時間が長いのが気になりました。
・出前講座の話はもう少し短時間に簡素化した方が…
・アンケートの円グラフが白黒で、どこが何%なのかわからない。資料にも%の下に文字を入れて欲しかった。

<歯科医師の話>14名

・訪問歯科の報告は大変参考になった。
・訪問歯科の内容について、知らないことも多く勉強になった。
・歯科医師の話が聞いたことが新鮮で勉強になった。
・細かく、よく理解できなかつたが、歯科には興味があるので話が入ってきた。
・訪問歯科で嚥下検査が行われていることを知りました
・経口摂取時の内視鏡動画が参考になりました。抗がん剤治療中で食事がとれない人等も相談してみたい。

- ・ 訪問歯科の内容について、知らないことも多く勉強になった。
- ・ 口腔について、普段みれない講義も受けれたこと。
- ・ 歯科医師さんからの歯ブラシの仕方。
- ・ 在宅でも嚥下の検査ができることが分かりにくかった。
- ・ 嚥下リハビリで摂食可能になった事例。
- ・ 高齢者歯科治療の重要性を感じました。

<薬剤師の話>13名

- ・ 薬剤師による訪問があることを知ることができた。
- ・ 薬剤師の内容について、知らないことも多く勉強になった。
- ・ 薬剤師さんに直接疑問を伺えた。
- ・ 薬剤師さんの具体的な関わりを聞くことができ、今後活用していきたいと感じた。
- ・ 独居、認知介護の生活をしている方が増えている状況で、今後はもっとケアマネとして薬剤師さんと協力していきたいと感じました。
- ・ 薬の事は薬剤師に色々相談することが一番良いと分かりました。
- ・ 薬について分かりやすかった。
- ・ 薬剤師さんが在宅の方に薬の管理等で関わって下さっていることを知りませんでした。知る事が出来て良かったと思います。
- ・ 介護保険外で薬剤師さんの関わりがとれるか知りたい。市によって違う。
- ・ かかりつけ薬局の機能を知ることができた。

<リハビリ職の話>8名

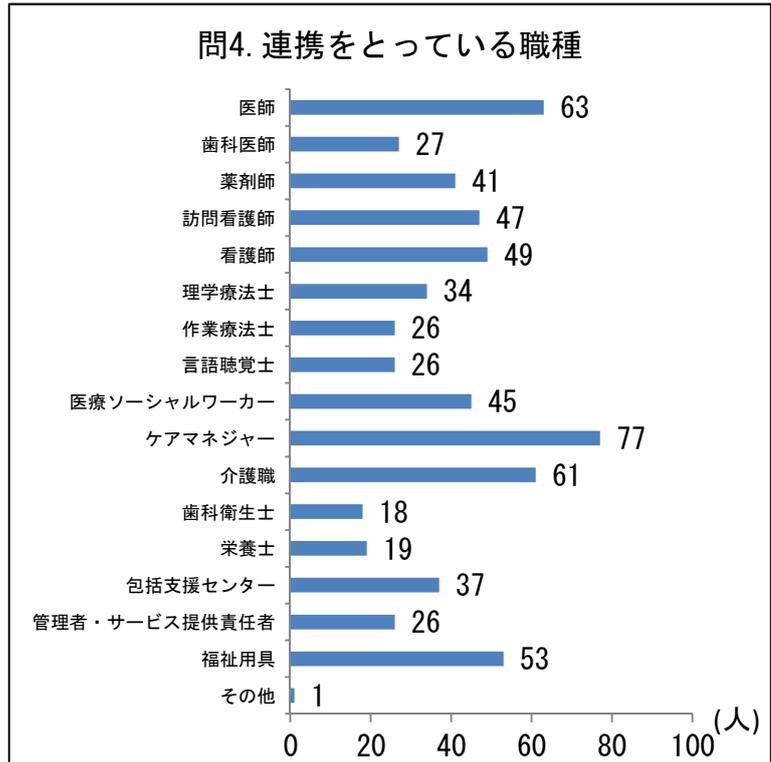
- ・ 専門職によるリハビリのみで完治しないことが分かった。
- ・ OTさんからの専門職リハビリについて家族は退院がゴール、OTさんは退院からがリハビリ、考え方の違い。
- ・ 先生のお話しで参考になりました。
- ・ すごく参考になった。分かりやすかった。
- ・ リハビリや訪問の内容など知らなかったことが多く参考になりました。
- ・ リハの報告は大変参考になった。
- ・ 通所・訪問リハビリの流れ

<グループワークについて>4名

- ・ グループワークの時間は長く取って頂けると嬉しいです。グループワークでは活発な様々な意見が出て楽しく、有意義な時間が過ごせました。
- ・ グループ内で、小さな疑問が解消できた。
- ・ グループワークが出来たこと。
- ・ 実際に顔を合わせての意見が聞けて良かった。

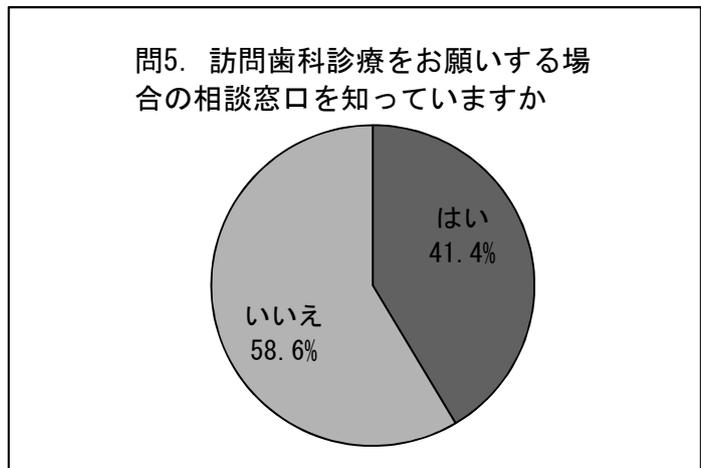
問4. 連携をとっている職種（複数回答）

職種	人数
医師	63
歯科医師	27
薬剤師	41
訪問看護師	47
看護師	49
理学療法士	34
作業療法士	26
言語聴覚士	26
医療ソーシャルワーカー	45
ケアマネジャー	77
介護職	61
歯科衛生士	18
栄養士	19
包括支援センター	37
管理者・サービス提供責任者	26
福祉用具	53
その他	1



問5. 訪問歯科診療をお願いする場合の相談窓口は知っていますか。

項目	人数	割合
はい	46	41.4%
いいえ	65	58.6%
未記入	6	



問6. 在宅療養患者の栄養サポートで困っていることはありますか。

34名の回答があった。相談先に関すること、食材、補助食品の選び方、家族の負担、金銭面、検査結果で問題点はあっても求める形態や食事内容の見直しには至らない等の困りごとがあげられていた。

- どこに聞いてよいのか相談先が分からない（ケアマネジャー、理学療法士）。
- 栄養状態に関しての共有できる情報が少ない（受診や検査結果など）。サポートをしていく際の相談先が不明（理学療法士）。
- 自宅では家族の力のみではなく、外部のサポートを受けるにはどうすればよいか？（ケアマネジャー）。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居の方、足腰の弱い方、栄養バランス、好き嫌いなど、嗜好もあると思うので食べると言っても食べられる物でもない。（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べられているかどうかは聞くが、それ以上はなかなか聞いていません（通所介護）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取量はあるが、採血の結果があまり良くない方はどうしたらいいか？（管理者・サービス提供責任者）
<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズや問題点があっても、金銭面や生活習慣は介入しにくい（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経口摂取ができない方を在宅でみたい時、どうすれば一番家族の負担が少ないか知りたいです（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲み込みやすい食材→加工。自宅で家族が楽に調理できるもの（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族が現状を受容できないこと（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなかご家族に食事の準備をして頂けない方への、栄養管理が難しい事例があります（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 嚥下機能低下をきたした場合、どう調理すれば良いか、家族も困ってしまう場合が多く、栄養士が訪問してもらえると良いと常に思います（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経口摂取を望んでいても、嚥下障害が強く、求める形態の食事が提供できない。食へのニーズが満たすことができない難しさを感じた（看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅生活をしている独居の方の栄養バランスの悪さ、栄養の重要性の知識の低さ（理学療法士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金銭面の負担が大きく、栄養サポートより食べられるもの、安価なものになってしまう（栄養士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ご本人の意向を尊重してあげたい気持ちと、しっかり栄養を摂って欲しい気持ちの間になることもあります。訪問時、楽しいと思えて、ひと口でも召し上がって欲しいという気持ちで支援をしています（理学療法士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助栄養の提案をしたいがDMを既往にあたり、どの補助栄養剤を進めていけばよいか分からないことがある（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退院後、嚥下調整食を食べている患者様のご家族が嚥下調整食が作れなくて困っているケースがあると思います。そのようなご家族向けのサポート制度があればよいと思います（言語聴覚士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食欲のない利用者をどのようにサポートすべきか（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 透析中、心不全、DM・・・の在宅生活中の方、血液データを見ても、食事の内容の見直しには至らない事が多い。食事の内容を聴取しても…わからない（理学療法士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事形態が合っているのか分からない時がある。金銭的な問題もある。こだわりや偏食の強い人のサポート。病院から指導されていても守れない人が多く困っている。水分やアルコールの問題もある…（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 義歯の状態と食事形態の整合性（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ エンシュアは下痢になってしまう方がいる。あますぎて飲んでくれないことが多い。他にお勧めがないか知りたい。摂取しやすいもの、味のおいしいもの（通所介護）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養指導が必要な方（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ どうやってタンパク質をたくさん摂ってもらえるか（薬剤師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経管栄養においてラコール、エンシュアなど処方できればよいが、腎機能低下・DMなどで特別な栄養剤（リーナレン、DMベストなど）を使用したいとき、食品扱いとなるため、高価で使用が難しい（訪問看護師）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設入居者の場合、施設に合わせた食事になってしまうため提案が難しい（理学療法士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事をほとんど摂られず、高カロリーの飲み物のみの方がみえます。どうしたら食事を摂ってもらえるのか（施設介護）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ DMがあるため、低栄養だが補助栄養の選択が困難。独居の方のカロリー管理（何をどれだけ食べているかの把握）→どんどん太ってしまう（理学療法士）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食が進まない方への勧め方。栄養補助食品のいろいろ（ケアマネジャー）。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案したり購入しても実際に食べたり飲んだりせずにいることがあり困る（理学療法士）。

- ・直接お話を聞く機会があると助かります。具体的には現時点では思い当たりません（訪問看護師、薬剤師）。

問8. 研修への意見、今後企画してほしい内容

<感想>

- ・普段関わることのない職種の方と話をする機会となってとても良かった。
- ・今回、薬についての内容（骨の薬と歯の治療）は、知らなかった事もあり、とても参考になりました。
- ・多職種の方の詳しい職業の内容がわかってよかったです。
- ・色々な話が聞けて良かったです。
- ・各職種の役割がよく理解できました。事例が聞けて良かった。
- ・レベルの高い多職種連携だったと思います。とても興味の持てる内容だったと思います。
- ・日頃、なかなかお聞きすることができない情報を得ることができました。
- ・支え合って介護が出来ていることを、再確認できました。
- ・色々な職種の方々がやっている事がを知ることができて良かったです。
- ・介護職と専門職との知識量の大きさが違い過ぎて理解し合えないように感じる。情報の共有のために何が出来るのかと疑問に思う。
- ・グループワークがとても良かったです。久しぶりに多職種連携に出席させていただきましたが、医師の話や現場の介護の話を聞いて、お客様の症状の原因がよく分かりました。
- ・歯科医師からの現場でのリアルな情報が聞け、大変参考になった。
- ・歯科医師の嚥下の動画など貴重な話が聞けて良かった。
- ・歯科、嚥下造影検査（VF）、リハも含めて在宅で支援できると、施設入所の際、連携が助かります。

<開催形式>

- ・日中の方がいいです。
- ・今後、オンラインで参加できるとありがたいです。（終業後、間に合わない事がある為）
- ・グループワークにおいて、グループメンバーの声が聞こえなくて大変でした。Zoomで、グループごとの部屋でディスカッションした方が良かったのではないかと思います。
- ・具体的な症例を作って、テーマを決めてディスカッションするのが良いです。
- ・グループワークの時間がもう少しあると良いと思いました。基本的なことを知っているようで、知らないことも多いため、こういう機会はありがたいです。
- ・多職種の方との話す時間を長く設けて欲しい。時間が短く関係作りは難しい。
- ・夕方～夜の時間帯だったので小腹がすきました。間に10分（5分でも）休憩があれば嬉しかったです。

<今後企画してほしいテーマ・内容>

- ・「ささえiネット一宮」の使用方法、使用例、すすめ方
- ・ケアマネとの連携で困っていることなど
- ・医師の講演
- ・心のケアについて
- ・サービスの変更・終了に対する各職種の考え方
- ・口腔ケアの重要性
- ・管理栄養士さんが介入するケース
- ・認知症に対しての接し方
- ・慢性疾患へのアプローチ
- ・BCP関連
- ・ACPについて